

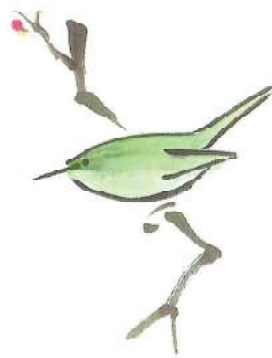
## しんらん同人

No.536

1・2

月号

聞



今年の目標を漢字一文字であらわしました。

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われも ひかりの うちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

あけましておめでとうございます。

今年も皆様にとりまして、よき一年でありますことを思うばかりでございます。

年頭に当たり、今年の目標を考えようと致しましたが・・・

希望と不安が混在する中で、不安が更なる不安を呼び、一方で根拠のない希望を抱いてしまう繰り返しをなんとか打破したいものです。

新年を迎えた今、平成二十八年を色々な面から十分に反省し、今の自分の置かれている状況と、求める方向をしっかりと持たなければならぬとの思いに至りました。

「自信教人信の聖訓」を真ん中に据えて、お同行の更なるご協力をいただきながら、色々な絵を描いていきたいものです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

合掌

昨年の「しんらん同人」7・8月号より三回にわたり掲載してまいりました「久野俊子様の十三回忌法要における、前々住職・岡本泰雄師の法話」は、今回で最後となりますが、途中からご覧になっていらっしゃる方々から、全文を一括して読みたいとのご要望をいただいておりますので、この新年号に改めて全文を掲載いたしました。保存版としてご利用いただければ幸いです。

## 久野俊子夫人の最後

### 「13回忌に婦人を偲んで」

誓願寺住職 岡本泰雄



故久野俊子夫人は、唯一人の愛児寛子嬢を昭和16年・千代田高等女学校在学中に失い、続いて昭和29年・夫君順次氏の急逝に遇われました。

また孤独のうちに闘病20余年、昭和36年・61歳にて浄土往生を遂げられました。その間、千代田高等女学校のお世話や福祉事業に精力的に取り組まれた方です。

#### (礼讃文)

われ今幸いに まことのみ法を聞いて 限りなき命を賜り

如来の大悲に抱かれて 安らかに日日を送る。

つつしんで深き恵みを喜び 尊きみおしえをいただきまつらん。

本日は全く不思議なご縁で、久野さんの13回忌のご法要、ご縁に逢わせて頂きまして、こうして私までお招き頂きましたことを本当に有難く思っている次第でございます。

実は先日、幸田先生が雑誌の「なでしこ」をお送り下さいまして、先般久し振りに拝見いたしました。確かあれは1号でございましたが、一周忌の時に作られたもののようにございました。

それを拝見いたしますと、久野さんが亡くなられる間近かの頃

でございますが、幸田先生のご紹介と申しますか、お導きによりまして、久野さんのお宅をお訪ね致しました。その時のことが書かれてありました。

内容は、私がお通夜の晩にお話をさせていただいたことが掲載されておりましたもので、私がお話申し上げたことながら本当に有難く読ませていただいたことございました。

自分で言ったことが有難いというのはおかしく思われるかもしれませんが、そこに流れているものは私の意志ではなくて、久野さんご自身が喜ばれたお姿があるからであります。

如来のお慈悲を讃嘆してゆかれたお心持が述べられてあるからでございます。

そういうご縁から、このたびの13回忌にもご縁を結ばしていただくことが出来たので、本当に余程深いご縁があるなど、つくづく思っているような次第でございます。

実はそこに書かれてありますものは、その頃、事後承諾と申しますか、私がお通夜の晩にお話させていただいたことが、あの雑誌の「大法輪」に出ております。

私はいつの間にこんなものを書いたのだろうか、書いた覚えはないんだがとあって、段々尋ねてみますと、恐らくこれは、幸田先生が録音なされたもののじやなろうかと思うんですが。それが文章になって「大法輪」に掲載されておりました。

それと同じものがこの「なでしこ」に書かれてありました。大変有難く読ましていただいた訳でございます。

私としては、久野さんを偲ぶということに関しましては、そこに書かれてあることしか存じません。それで、これは全くの繰り返しになると思うのですけれども、ひとつ皆さん方も、もう一度その点をお味わい頂いて、久野さんの晩年のお姿というものを偲んでいただくと同時に、皆さん方も、仏法を喜ぶ縁にしているただければ有難いことでもありますし、また久野さんも大変お喜びになることではないかと思う次第でございます。

実は千代田女学園には、最近は何遍かお邪魔をさせていただきまして、お話をさせていただく機会を恵まれてまいりました。

ただし、近頃はそうでありませけれども、その当時、幸田先生にお目にかかる前は千代田女学園にはあまりご縁がございませんでした。もちろんその学校があることは知っておりました。けれども、再三深いご縁が結ばれるようになりましたのは、その後のことであつたかと思うのであります。



で、幸田先生から突然お電話がございました。その時に、実は久野さんという方がいらっしゃって、いま大変仏法の問題につ

いて悩んでおられる。だから、ひとつ来て話をしてもらえんだろうか、ということでもございました。

私は東京に出てまだ間もないことでございましたので、いろんな事情もまだ判りませんし、東京には立派な先生も沢山おいでになることだから、私のごときものに声をかけていただくこともないじゃないかと思ひまして、実は、築地本願寺などにもご連絡いただいたらどうでしょうかと申し上げたんです。

そうしましたら、これはご縁というより仕方ないんですが、とにかくあなたに来てくださいと、強引なお話でございます。それでお電話が終わりましてから、幸田先生が早速私の汚い寺においでくださいました。

それでお話を承りますと、信仰上の問題で非常に悩んでいらっしやるので、ひとつ話をして欲しいんだと、そして、いくばくもない命であり、いづどうなるか判らない状態であると。こういうお話でございました。

私もそれをうかがって、それは大変だ。とに角伺いすることに致しました。

夕方でもございましたが、その当時私は中古のスクーターで走り回っていた頃でもございましたが、そのスクーターの後ろに幸田先生に乗っていただきまして、西荻窪の久野さんのお宅をお訪ねしたのであります。

参りますと、玄関のところに「面会謝絶・主治医」と書いてありました。相当ひどいんだなあと、それを見て思ったんですが、幸田先生のご案内ですから、お家に入らせていただきますした。

確か6畳か8畳位の部屋だったと記憶するのですが、一方が庭に面しており、入って左側の所にベッドが置いてありまして、そこに久野さんがお休みでした。右側の方には床の間がありまして、いろんな道具もあったようでしたが、その高いところにお仏壇が安置されてある。丁度お休みになっていらっしゃる久野さんの所から臥たまで見えるところにお仏壇が安置されていました。

私は、これは習慣でありますけれども、他所さまにお伺いいたしますと、一番先に仏さまにお礼をさせていただくのを習慣といたしておりますので、部屋に入るなりお仏壇の前に座りまして、偈文を静かにあげさせていただきました。

手を合わせお勤めをしつつお仏壇の中を見ますと、そのお仏壇の中には、亡くなられた寛子さん・お嬢さんの写真、それからご主人の写真でありましょう、それがお仏壇の中一杯にかざられていました。阿弥陀さまのお姿はほとんど見えないのです。

ですから、久野さんのお休みになっていらっしゃる所からも、恐らく仏さまのお姿は見えないで、お写真だけが見えているという状態じゃないかと思いました。

それで私はそれを見ながら思ったのです。ははあ、問題はあるんだなと思いました。悩みがあるとおっしゃっていらしたが、その悩みはどういう悩みであるか、まだその時はうかがっておりませんでしたけれども、私はその飾りを見まして、問題はここだなと、ふっと思ったんです。

それでお参りを済ますと、幸田先生からあらためてご紹介いただきましたまして、久野さんにお目にかかりました。



その時は、皆さんもお親しい方々ですからご存知の通りでありますけれども、頭の毛はもう真つ白であります。もう体といえぱ全く骨に肉付けたようなものであります。何処を探したって肉のないような、もう実によせ衰えてしまったお体でありました。

そして手にお数珠が、腕輪念珠が確か三つか四つ掛けられておられました。

私が参りました時、横になっておられましたか、お話を承りますと、もう横になったら横になったきり真直ぐになれない、どちらも向けない、させられたまましかどうにもならない状態にあったようです。

そこで私は、はっきりとは今記憶しておりませんが、その時に、何か本当に大変だと思うが、何かお尋ねになりたいこと



がありましたらと申しましたら、その時に久野さんがおっしゃるのに、本当に蚊の泣くような声でしたが、やっと出る声でお話を聞かされたのです。

それは一口で言ってしまうと、自分はお浄土に参りたい。お嬢さんの寛子さんの往ったお浄土に自分は参りたいんだ。どうしたらお浄土に往かれるだろうか、ということでありました。

これは、皆様もご承知のように、たった一人のお嬢さんを 18 歳という美しく元気な時に亡くしてしまわれた。

その亡くなったお嬢さんが、亡くなる時に「私は今からお浄土に参らしてもらいます。お父さんもお母さんも、私の往くお浄土にぜひ来てください」と、こう言って亡くなられたというのであります。私の往くお浄土に是非来てくださいよと、切に訴えるようにしてお話なさった。

それが、久野さんの胸の中に消すことの出来ないものとなってしまった。

私自身の体が、ああした多発性関節炎という全く残酷というか、あんなひどい状態はちょっと考えられないのですが。それ以前にお嬢さんを亡くし、そしてまたご主人を失い、ご自分の体はというと、もうどうにも自分でままならないようなひどい体になりました。

さぞお苦しかったと思います。

ずっと後になって私はお目にかかったんですから判りませんが、そういうことだけでも、あんなひどい状態におかれるなんて、よくあれで生き抜いてこられたなあと思うんです。今でも時折私は思い出しては、この位のことでは、久野さんはあんな状態でさえ生き抜いてこられたのに、自分は何ということだろうと、自分を励ます大きな力になって下さったことは事実なんでしょう。



人にもよくこの話をするんですが、可愛いお嬢さん、たった一人のお嬢さんを失い、大切なご主人を亡くし、そしてご自分は、ああいう常に痛み続けるようなご病気を十何年間も患って床に臥せっておられた。

それだけ考えただけでも、よくあそこまで本当に生きられたかと思わざるを得ないのでありますけれども、そういう体でありながら、久野さんご自身が常にいつも心に念じておられたのは、何とかして寛子さんの往かれたお浄土に自分も往かねばならん、何としても往きたいものである、ということであつたようであります。

それで、いろんな先生方にも色々ご法話を聴聞しておられたようでありますが、ところが何としても胸の中の解決がつかない。

それで私が思いますのに、大体久野さんは浄土宗のお寺の檀家であられたそうであります。ご承知のように、浄土宗という宗派は法然聖人のお開きになった、我々真宗のものとは非常に深いご縁のある宗派であります。

親鸞聖人ご自身は法然聖人を善き人として、こんな有難い先生はいない、この恩師がなければ、私はこのお念仏の教えは聞かれなかったんだと。いや地獄にでもこの法然上人とご一緒なら落ちてもいいとさえ、それほどに深く帰依しておられた法然上人であります。

しかしながら、こんにちの浄土宗の教えと言うものは、法然上人の真意を受け継いでいかれた親鸞聖人の味わい方と少し違うところがあるように思います。大変な違いがあると言えるかもしれません。

それはどう違うか。同じ念仏の教えであり、同じ浄土宗であるにもかかわらず大変な違いがあるということは。

何処が違うかというと、端的に言ってしまうと、現在の浄土宗で説かれている教えというものは、一生懸命に念仏を唱える、また数多く唱える。そうするとその功德によってお浄土に生まれることが出来る。あるいは、一生懸命に善根功德を積んでゆ

けば、死ぬ時になって阿弥陀様がお迎えに来て下さる。

だから、努めて善いことをしていかなければお浄土に生まれることは出来ないのだと。

そういう意味で心から念仏を唱える、数多く唱える。これが善根となる。それから出来るだけ善い事をし、善い心を持つということが、お浄土に生まれる道であると、こういうふうにおっしゃるようでございます。



なぜそういう考え方が言われるようになったのかというと、それは元をただせば、観無量寿経というお経がございます。真宗においては浄土三部経といい、大無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経があり、所依の經典、即ちよりどころとする經典はこの三つであります。

その中の観無量寿経、このお経はどういうお経かと申しますと、もうすでにご承知でもありましたが、真実の法が大無量寿経に説かれており、その真実のお念仏の道をいただいた人達、お念仏の教えを聞いて救われてお浄土に往った人達を画いたのが観無量寿経であります。

その念仏で救われたのは誰かというと、その主役となられたのは韋提希夫人であります。

この人はまたひどい目に合われた人なんです。わが子によって牢獄に入れられて、大変な苦しみを受けたのであります。そのご主人である王様も息子のために牢獄で殺されてしまう。たった一人の息子のためにそういうひどい目に遇った人なんです。

それであらゆるものを怨み、憎みしてきたんでありますが、その人が釈尊の教えによってお念仏を喜ぶようになっていかれた。そのことを説かれたのが観無量寿経というお経なのです。

その観無量寿経の中に九品（くぼん）ということが書いてあります。

九品と申しますのは、上品・中品・下品と分かれておりまして、これがまた上品は上生（じょうしょう）・中生・下生の三つに分かれ、中品も上生・中生・下生の三つに分かれ、下品も上生・中生・下生の三つに分かれております。

人間を九つの段階に分けた、人間の種類といえますか、仏教では機根と申しますが、人間の値打ちといえますか、性格といえますか、そういうものを九つに分けてあります。

ですから、この中では上品上生というのが一番上等な人間なんです。下品下生というのが一番くだらん人間なんです。もう手におえないような人間が下品下生、一番上等なのだ上品上生です。

皆さん、ご存知の方がございましたが、九品佛という所があります。あれは田園調布線ですが「くほんぶつ」あれはこれから取ってある。ですからあそこには上品と中品と下品の仏さまが

三体まつてある。ご縁がありましたら一度お詣りになられるといいと思います。

余談になりましたが、こういうことが観無量寿経に述べられてありまして、悪いことをした人間は下品下生になって、亡くなったらお浄土に生まれても一番下の段にしか生まれられんというわけです。

だから、いい所に生まれたいと思うなら出来るだけ善根功德を積んでいけば、中品にも生まれるだろうし、中品よりもっと一生懸命に善根功德を積み上げ上品上生として、お浄土の最高のところに生まれることも出来る。

出来るだけ善いことをしなさい、出来るだけ悪いことをやめて、一生懸命にお念仏を唱える、それも純粹のお念仏を唱えていけば、お浄土に生まれても上の方に生まれることが出来る。こういうふうに説かれています。

それをおそらく久野さんは、小さい時にでもお聞きになったのではないか、そんな気が私にはするのであります。

それは直接ご本人からお聞きした訳ではありませんから、私の想像でありますけれども、久野さんは浄土宗の檀家で、大変お世話なされたこともあったということを一寸うかがいましたので、



恐らく浄土宗のこういう受け取り方を聞いておられたのではないで  
しょうか。

なぜ私はそういうことを想像するかといいますと、皆さんもご  
存知のように、あの痛々しい、なんとも言葉では言えない様なひ  
どい体の状態でありながら一生懸命に心を使っていた。

善い心になろう、善い事をしよう。その一つの例がああ点訳を  
なさった事でしよう。痛い体にもかかわらず、健康体でさえも点訳  
は大変な仕事でありますのに、あの体でありながら床にやすんだ  
ままでも点訳をして、万葉集を点訳してそれを盲人協会ですか、  
そういう方々に寄付された。

これは、何とかして善い事をしようというそこから出ていると  
私は思っています。

だから、なさる態度というものは実に美しい、立派だし、善  
い事をしようと努力しておられることは、最初うかがった時に私  
は明らかに感じました。

それで一生懸命になって実践された。この考え方は、この九品  
という観無量寿經に説かれた考え方によるものと思われました。

下品下生でもよいから、とに角お浄土に参りたい。しかし、出  
来得れば上品でありたい。

それは、寛子さんという方が18歳という若さで、美しい清ら

かな心で亡くなっている。更に、亡くなる時に、私はお浄土に  
参らしてもらおうからと言って往かれた。

ああいう人だから、恐らく寛子さんは上の方に参っていただける  
だろうと。

純な心で言っているんだから恐らく浄土の上の方だろうと、こ  
う思われたのでありましょう。

だが、自分はとても汚い心だし、そんな上の方には往かれない  
けれども。下の方でもいい、参らしてもらえさえすれば、それ  
からはそこで修行して寛子さんのいる所まで行きたいと思われたの  
でありましょう。



久野さんをお訪ねする前に幸田先生から、あまり長くしない  
で、30分位で止めてくださいというお話が確かあったと思いま  
す。

私はそのつもりで行った。またその状態から、これはあまり長  
くはいかなな思いましたけれども、段々お話ししているうち  
に、時間はもう忘れてしまいました。

そして大体お話ししたことはどういことだったかといいますと、  
随分ひどい言い方だったかも知りませんが、あなたがどんなに努



力して一生懸命善い事をしようと思っても、また善い事をしたと思っても、それによってお浄土に参ることは出来ない。

それは何故かと言うと、我々のする善というものは、雑毒の善でしかない。行は虚仮の行でしかない。

雑毒の善というのは毒が混じっている。例えば、善い事をする。何か人に親切をするときでしょうか。そこには毒がまじっている。どんな毒か。「俺がしてやった」という毒がまじっている。「してやった」という気持ちがあります。しかも相手から「ありがとう」と言ってもらいたい気持ちなんです。

そしてお礼を言われないと、今度は腹が立ってきます。もう二度としてやらんぞという気持ちになる。それが、毒がまじっている証拠なんです。

雑というのは「まじる」ということなのです。毒のまじった善しか出来ない。要するに自分を離れた善なんてないんです。全部中心は自分です。



皆様はよくお聞きでしょうが、仏教では布施ということを申しますが。次の三つの事を考える布施はだめだということです。

それは何かと申しますと、「私が」「誰々に」「何を与えた」

この三つを考えたら布施にならないのです。

ところが、私達はいつも自分を考えているのです。「私が」「お金を」「あの人にあげた」と、こう思っているのです。それを全部思わないでやる行いは残念がらないのです。

ですから、善い事をした、立派なことをした。それは皆「自分が」ということを考えているのです。心の奥には、何とかいい結果を自分で得ようという気持ちがある。

人のためにしたなんて言っているけれども「情けは人のためならず」で、やっておけば損をせん、いつかはまた返ってくるという気持ちがあるのです。

これは本当に悲しいことなんですけれども、我々のすること、自分を離れたものはないんです。みんな、自分が、自分が、俺が、俺が、という気持ちであります。

だから久野さん、あなたのやっていらっしゃることは、そりや人間としては立派な行いかも知れないけれども、そのやったことはお浄土に生まれる因（たね）にはならないのです。清浄真実の世界に生れていく因にはならないのです。

みんな迷いの世界の善であって、お浄土のに生れる因となるよ

うな善ではない。

だから地獄よりほかに往く場所はないのです。

それは、仏さまの光りに遇って自分というものを眺めさせてもらってみればみるほど、実にお粗末な恐ろしい心を持つ、浅ましい気持ちを持った自分なので、そのやることに真実のあらうはずがないし、純粹な善なんかあり得ない。

それを、僅かな善をしたから自分は極楽に生れるだろうと思う。

とんでもないことである。しかも、あなたのような今の体となって何でどういう善が出来ますか、と。

私はそういう、ちよつとひどかったかと思えますけれども、そう申し上げました。



そこで、お浄土へ生れるということは私の力ではない。

私がお浄土に生れさせてもらうというのは、如来の本願力、仏さまのお力による他には我々の救われる道はない。

だから、如来は我々のこの汚い心、浅ましい思い、おろかな気持ちを全て見抜いておられる。

そうして、この苦しみに迷っているこの私を助けずば仏とはならじ。

どんなことがあっても救うぞ。必ず救うというその願いを、如来の方から私にかけていて下さるのです。

私を救おうと如来の方が一生懸命になっていて下さる。

その願いを仕上げたのが南無阿弥陀仏ということなのです。

ですから、南無阿弥陀仏という善根を唱えてお浄土に往くというのではなく、南無阿弥陀仏ということは、如来の喚（よ）び声なのです。

必ず救うぞ。間違わさんぞ。お前を絶対に落とすはしないぞと、私を温かいお慈悲の腕の中に抱き取って下さることが、南無阿弥陀仏であります。

南無阿弥陀仏と称える力で助かるのではなくて、助けられている証拠が南無阿弥陀仏であります。

おろかな自分、汚い自分がそのままお慈悲に抱かれているのです。

だから、如来の願力を信じ、如来のお慈悲を信じてお念仏を申していく。

念仏はただ有難うございますという感謝の念仏なのです。でありますから、あなたは少しも気張る必要はないのです。

捨てるどころか、次から次に起こってくる煩惱、そのために悩み苦しむこの私を見通されて、この者を何としてでも救いたい、それを救うことが出来なければ仏（正覚）にはならないと誓われたのです。

こんな浅ましい私をお目当てのお慈悲であります。

救われるのはあなたの力ではない。如来の力一つで救われて往くのだから、何も心配することはないのです。ということをお話しました。

そして、寛子さんはお浄土に居られて、自分もそこに往こうと思っている。それも間違いだということをお話しました。

お浄土に参られた寛子さんは、お浄土にぽかんと待っていて、ご両親が何時来るかなあなんて、ハスの花の上に座って待っているような方ではありません。

仏になるということ、お浄土に生まれるということは、生れてそのままじっとしているのではなくて、還相という働きがある。お浄土に生れることを往相といいます。還相といってお浄土から今度はこの世界に還（かえ）って来るという働きがあります。

南無阿弥陀仏をいただいた人はお浄土に生れるだけではなくて、お浄土に生れたら今度は仏として神通力をもつて、迷うた人を救うという働きをさせてもらう、そういう力をあたえられる。これは全て南無阿弥陀仏の中にこもっている。

であるから「今からお浄土に参らしていただきますから、お父さんもお母さんも参ってくださいよ」と勧められたお嬢さんはおそらく仏となられて、そして還相してこの世に還って来て、あなたが休んでいるそこにご一緒に居て下さる。

それで、寛子さんの所へ往こうなんて思わんでも、寛子さんという、かつては寛子さんであったが、今では仏さまと同じ働きをなさる仏さまとなって、あなたのそばに来て下さる。あなたをしっかりと抱いていて下さる。あなたを照らして下さるお方なんです。

だから、あなたとベッドの中に一緒にいらっしゃる。何も案ずることはないんですよ。

ただ、南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏と、ご報謝のお念仏を申させていただくばかりです。

こういう話を、まことにざっとして要領だけ申し上げたのですが、久野さんもただ黙って聴いて居られましたが、時間を見ましたらもう 2 時間位も経っていました。

これはえらいことをしたと思ひまして、失礼をさせていただきます。



あくる朝、私は独りで久野さんのお宅をお訪ねいたしました。そうしましたところが、私が部屋に入るなり、あの痛い手を動かしながらお珠数をこう両手にかけましてね、にこにこしながら私を拝まれるのです。

私は傍に行つて「いかがですか」と言いましたら、こうおっしゃいます「重い荷物をすっかり降ろさせて頂きました。もう軽々とさせて頂きました」と、ほほえまれました。

本当に久野さんにとってこんな重い荷物はなかったんでしょう。何とかして善い事をしなくてはならん。善い事をしなければお浄土に生れないと思うものだから、一生懸命ことごとく悪いことのないように、善い事ばかりせんなんと、頑張つていられた訳です。

それが、その必要がなくなった。

如来さまは私を背負つていて下さるんだ。

仏さまが自分を背負つていて下さる。

私を抱いていて下さるんだ、ということが味あわれてまいりますと、もう自分を背負う必要がなくなった。

善い事をせねばならん、悪いことをせんように。そんな力みはもう一つも要らん。

ただ仏さまのお慈悲の中に生かされていることを喜ぶばかりである。

そこをおっしゃったのだと思います。

重い荷物をすっかり降ろしてしまいました。もうこれで軽々となりましたと、大変お喜びになりました。

私はそのお言葉を聞いて、ああよかったなあと思いました。

そして今まではお仏壇の中の写真ばかりを拝んでおられた。ご主人の写真を拝み、寛子さんの写真を拝んでいられたが、今度は違う。今度は仏さまのお姿を拝まずにはおれないと私は思いました。



そして皆様ご承知のように、あのお通夜の晩に、久野さんがおっしゃった最後の言葉がテープから流されておりました。

あの中に、皆様のお名前をお一人お一人あげて、お世話になりました有難うございましたと、丁寧にお礼を申し上げる。その間、間に、私は日本一の幸せ者ですという言葉が、確かあったと思います。

ああいう人が何故日本一の幸せ者なのでしょう。



何処から見たって幸福とは考えられない、そういう状態にある方が、私は日本一の幸せ者だという喜びを得られたということは、如来の大悲を仰ぎ、如来のお慈悲の中に生かされている自分であったと、気付かせられた。

そこにこそ、本当の幸せを頂くことができたのではないかと、私は思うのであります。

人間的には幸福な材料は一つもない。しかし、自分の中に如来の温かいお慈悲を受け取らせていただき、お慈悲の中に生かされているという、大きな喜びを恵まれたということが、本当の幸せであることを感じておられたと、私は思うのであります。

申すまでもなく、今はお浄土に生れられて、そして今、今日の13回忌のご法要にも、もちろんここにおいでくださって、私供を導いて下さるに違いないと思う次第でございます。

色々もうしあげたいことも沢山ございますけれども、大変長い時間、失礼致しました。

本日はこのような機会を恵まれましたことを厚くお礼申し上げます。

ありがとうございます。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏



## 来寺記念品

平成 28 年



平成 29 年

「われも ひかりの うちにあり」  
この言葉にはげまれ、  
心豊かな人生が育まれます事を  
願っております。

来寺記念品も

五年目を迎えます。



平成 25 年



平成 26 年



平成 27 年

## 写真で振り返る平成28年



【4月】 定例法座の様子



【5月】 永代経法要



【6月】 念仏交流会



【7月】 お盆法要



【8月】 物故者追悼法要



【9月】 彼岸会法要



【10月】 前住職 一周忌法要



【11月】 住職継職法要・報恩講



【11月】 お稚児さん行列



## 誓願寺 平成 29 年 年間ご法座のご案内



### 6月

6月 6月  
25日 11日  
日 日  
午後1時 午前10時  
定例法座 定例法座

### 5月

5月 5月  
28日 14日  
日 日  
午後1時 午前10時  
永代経法座 定例法座

### 4月

4月 4月  
23日 9日  
日 日  
午後1時 午前10時  
定例法座 花まつり

### 3月

3月 3月  
26日 12日  
日 日  
午前10時 午前10時  
彼岸会法要 定例法座

### 2月

2月 2月  
26日 12日  
日 日  
午後1時 午前10時  
定例法座 定例法座

### 1月

1月 1月 1月  
22日 8日 1日  
日 日 日  
午後1時 午前10時 午後1時  
新春特別法座 定例法座 年頭法座

### 12月

12月 12月 12月  
31日 17日 10日  
日 日 日  
午後12時 午後1時 午前10時  
除夜会 定例法座 定例法座

### 11月

11月 11月  
26日 12日  
日 日  
午前10時 午前10時  
報恩講法要 定例法座

### 10月

10月 10月  
22日 8日  
日 日  
午後1時 午前10時  
定例法座 定例法座

### 9月

9月 9月  
24日 10日  
日 日  
午前10時 午前10時  
彼岸会法要 婦人会追悼法要

### 8月

8月 8月  
27日 13日  
日 日  
午前10時 午前10時  
定例法座 定例法座

### 7月

7月 7月  
23日 9日  
日 日  
午後1時 午前10時  
定例法座 お盆法要





## 2 月

## 1 月

2/26  
(日)

午後一時

定例法座・祥月命日合同法要  
【高田慈昭師】

2/19  
(日)

午前十時

なかよしクラブ(乳幼児から小学生まで)

2/12  
(日)

正午 午前十時

定例法座 【岡本信悟師】  
医療相談 【佐藤公彦医師】

1/22  
(日)

午後一時

新春特別法座・祥月命日合同法要

1/15  
(日)

午前十時

なかよしクラブ(乳幼児から小学生まで)

1/8  
(日)

正午 午前十時

定例法座 【岡本信之師】  
医療相談 【佐藤公彦医師】

1/1  
(日)

午後一時

年頭法座

## 【ご法座等のご案内】

## 編集後記

・ 十一月二十七日「報恩講」「住職継職法要」を、無事執り行うことが出来ました。次世代を担うお稚児さんたち十七名がかわいらしく、好評でした。



【報恩講・  
住職継職法要】



【お稚児さん行列】

・ 伝灯奉告法要における本山への団体参拝が三月二十九日、三十日に行われます。東京教区北組十三ヶ寺で百五十名。誓願寺から十四名の参加が決定しました。

## 【受付口座】

東京信用金庫 椎名町支店 普通口座 1029981  
誓願寺 代表役員 古賀尚之

本願寺「宗門総合振興計画へのご懇志」を  
次の方々から賜りました。(平成二十八年十一月末日現在)  
中原綾子様。野田曠様。鈴木美和子様。岩下洋三様。  
川内康治・八重子様。